

社会保険労務士のむら事務所通信

2016春号
発行人：野村祐輔
2016年4月1日発行
第1号

一億総活躍社会を考えてみた

昨年ぐらいから安倍晋三首相が盛んに口にしている”一億総活躍社会”というコトバ。皆さんはその具体的な意味はわかりますか？

今年1月28日の参院本会議での安倍首相の発言です。人口減や人手不足からくる外国人労働者の受け入れ拡大の必要性について「いわゆる移民政策をとることは全く考えていない」と発言しました。

これはこの国の将来を、欧米のような移民政策で労働力不足を補ってゆくことなく国内人口の労働力のみでまかなってゆこうという考えだと思えます。

高齢化社会と人口減の激しい日本では、国内人口だけで今後も社会を動かしていく、それは一見不可能なように思えます。そこで”一億総活躍社会”なのでしょう。政策的には働く意欲のある高齢者・障害者・育児世代以降の女性の雇用安定化がより必要となってきます。

現在でも、高齢者・障害者・女性活躍に関する雇用助成金が数多くあります。それらの方々を新規に雇用する場合や人材登用する場合、社内での制度を作る場合などには政府から助成金が貰えます。（それらの助成金診断は当事務所でも行っています）また反対側から見れば助成金は国の施策の方向性を探る上でもとても重要な意味を持っています。

ところで、最近では週刊誌の記事でも見かけるように、ロボットやAI（人工知能）の進化によって10～20年後には消えてゆく職業も出てくるのではとされています。機械がヒトから労働を奪い、結果として絶対に必要な労働人口が減ってゆきます。これも移民政策をとらなくても良いと考える一因だと思います。販売員や接客係・事務員・セールスマン・秘書・単純動作の作業員・運転手・調理人などがロボットやAIに取って代わられる職業の代表として挙げられています。

この2つを見てもわかるように働くことや雇用の概念が大きく変革する時代はもうそこまで来ているのでしょうか。まさに本当の意味で終身雇用の時代は終わります。同一労働同一賃金というコトバも政策のキーワードとして安倍首相は発言していますが、雇用流動化の未来を前提として見据えた発言なのではないかと思われまます。

いずれ、あなたの事業所の雇用形態も必然的に変わってきます。

これからの時代の雇用を考える。変化する時代をいち早く予想し準備しておく。そういった意味で私の事務所が皆様のお役に立ててゆければと考えております。



ロボットが上司になる日も来る？

健康ボウリング教室（後援：埼玉県）を春日部ターキーボウルにて開催します

公益社団法人日本プロボウリング協会主催（後援：埼玉県）の健康ボウリング教室が春日部市の春日部ターキーボウル（最寄駅：東武線春日部駅）にて開催されます。この教室に所長の野村もプロボウラーとしてお手伝いさせていただくことになりました。

ボウリングはウォーキングの次に健康に最適だと言われます。そして継続しやすいスポーツです。

ボウリングは室内で行われ天候に左右されません。ピンを倒す爽快感にストレス解消効果があります。ゲームとしての面白さ・奥深さがあります。そして、たくさんのお友達がしやすいスポーツです。

教室は全6週・2,000円。4/27スタートは水曜13:30～15:45・水曜16:00～18:15、4/22スタートは金曜10:00～12:15・金曜16:00～18:15の計4教室があり、野村は水曜2教室と金曜午前の教室を担当予定です。

詳しくはお問い合わせ、及び参加申し込み先として（TEL 090-4841-1777：坪井）まで願います。

詳しくはお問い合わせ、及び参加申し込み先として（TEL 090-4841-1777：坪井）まで願います。

いくつかの資格を取りました！

所長の野村は、暇があれば少しでも多くの研修会に参加し、業務の研鑽および最新情報の習得に繋げようと心がけております。その中で社会保険労務士業務として新たに労働問題のあっせんや調停の手続き代理業務ができる紛争解決手続代理業務試験に合格し社会保険労務士から特定社会保険労務士となりました。（まあ、ももいろクローバーZになったようなものだと思います！?）

またボウリングではJPBA（日本プロボウリング協会）認定A級インストラクターとUSBC（米国）認定ブロンズコーチの2つのコーチング資格を今年取得しました。（社労士業務ではないのですが・・・）



野村が進行の前の教室の様です



つぶやき

この4月で開業してから、はや1年。開業2年目に突入いたします。1年目はとにかく無我夢中で、”社会保険労務士”としてどう皆様のお役に立てることが出来るのか？そして社会に貢献できるのかを考えてきました。そのひとつとして、国の政策をいち早く理解し、皆様にわかりやすくお伝えし商売に役立てて頂く、このことをまずは大切にしたいと思います。